

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890700129
法人名	医療法人社団 中野泌尿器科
事業所名	グループホーム たからの夢
所在地	兵庫県神戸市須磨区高倉台4-2-7
自己評価作成日	令和6年12月6日
評価結果市町村 受理日	令和7年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)
基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人CSウオッチ
所在地	兵庫県加古川市加古川町稲屋177-10
訪問調査日	令和7年3月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療法人の為に、医療面の連携が出来ている。往診時に主治医に体調の報告を行い、受診につなげている。施設内での看取りも行っており、主治医と連携し対応している。主治医とは24時間のオンコール体制が整っている。地域の行事にも積極的に参加していて、日常の買い物も地域で行っている。地域の方も気さくに声を掛けてくれる。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【優れている点】①医療法人社団が運営のため、医療との連携がスムーズに図れる。また24時間医療体制が整備されている。②衛生面や掃除が行き届いた事業所環境③家族様アンケートでは、スタッフの優しさや対応への評価が高い結果でした【工夫点】①年3回人事考課および職員への面談を実施している。②令和6年度研修計画を基に動画研修等を実施している。フロア一会議を活用し研修報告を行い共有を図っている。③担当者を決めリーダーを通してフロア一会議にて課題解決にむけ検討する仕組みが確立している。④特殊浴槽が完備され重度化への環境整備。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果	
		1 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の2/3くらい 2. 利用者の1/3くらい 3. ほとんど掴んでいない 4. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない

自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己評価 第三者	項 目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に努めている	施設の玄関や各フロアに掲示し、職員の名れの裏にも理念を入れて、常に確認出来るようにしている。その人らしく生活が出来るように実践している。	地域密着型サービスとして何が大切かを事業所として考えている、職員は名れの裏に理念を入れ各フロアに掲示するなど取り組んでいる。日々利用者に関わる際、理念がケアに反映できるように共有を図っている。また新人職員へ理念を理解し意識づけする機会を持っている。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加し、買い物は地域の商店街やスーパーを利用している。	地域から受け入れられ、人々との関わりを持つように努めている。令和6年8月には盆踊りに参加し地域の方々、家族様と一緒に踊りを楽しみました。日常的に買い物にも出かけ、地域の方とふれあう機会となっています。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時などに地域の方に挨拶等を行い、認知症の人を理解して頂けるように積極的に声掛けを行っている。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業報告や事故報告や行事報告を行い、話あっている。	第3月曜日14時から開催します。あんしんすこやかセンター職員や家族様も参加されます。研修情報や行事等事業報告を行う。事故・ヒヤリハット報告は、各フロアごと件数および内容について報告している。参加者からの質問など、双方方向の話し合いの場となっている。運営や現場の実情など市町村に相談する機会はある。制度改正時では、加算への相談を行います。市町村担当者に連絡する場合は、メールでの相談となっている。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	問題点や疑問点に関して、連絡するが、返答は全てメール対応となっており、直接に会話する事が無くなった。	高齢者の身体拘束に関する研修として「身体拘束廃止」をテーマに3か月に1回研修を実施している。高齢者虐待・身体拘束オンライン研修を受講し令和6年9月フアイードバック研修を開催し「身体拘束をしないケア」の実践に取り組んでいる。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の研修を実施しており、月1回、各フロアにてリスク委員会も実施して話あっている。		
7	(6) ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修も実施している。機会があれば外部研修にも参加している。	高齢者虐待防止の理解を図るために、オンライン研修など参加している。高齢者虐待防止法の理解浸透や遵守にむけ取り組んでいる。研修目的や感想など研修報告書を全職員が作成する。現在は異性介護・同性介護に関する意義など学ぶ機会を持っている。	

自己 第三者	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8	(7) ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護についての研修を実施している。成年後見制度を利用している入居者様もいるので、関係者と蜜に連携している。	令和6年11月「権利擁護・法令順守」について研修会を開催し職員の理解を深めるようにしている。動画によるオンライン研修を取り入れている。利用者様の後見人である弁護士の方に必要時は相談できる。		
9	(8) ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の見学時に困っている事や不安な点をお聞きして納得が出来るように説明してから契約を行っている。契約時にも再度、確認している。	契約時には時間を取り丁寧に説明している。事前に見学していただき納得得た上で手続きを進めている。契約時には、「医療連携に関する同意書」「ターミナルケア・看取りについて指針」をもとに十分説明し同意を得ている。		
10	(9) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や連絡時に家族様から意見や要望があれば、フロア会議で話し合い、実施に向けて検討している	運営推進会議など活用し家族様や外部の方々の意見や思いなど聞かせていただいている。出された意見については月1回フロア会議で報告し、日々の運営に活かせるよう話し合いの機会を設けている。	ご家族様アンケート「改善してほしい点」に記載のあった要望をフロア会議等で検討してみてください。	
11	(10) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各フロア会議時に職員の意見や提案を聞く機会を設けている。必要時には会議時に関係なく意見や提案を聞く事が出来ている	毎月支援や業務に関する目標を設定され、向上心を持って働けるように取り組んでいる。利用者様との日々の関わりの中で生まれた職員の気づきやアイデアについてフロア会議を活用し検討している。		
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に対して、個別に面談を実施し、各目標や勤務状況の希望を聞いている。年3回に人事考課表にて個々の努力や勤務状態に評価を行っている。			
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内は全職員に周知し、希望者には研修に参加出来るようにシフトを調整している。内部研修は、オンラインにて全職員が時間に関係なく参加出来るように工夫している			
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワーキングや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームの運営推進会議に出席している。地域の会議にも参加している			

自己 第三者	項 目	自己評価	外部評価
		実践状況	実践状況
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事や不安に思っている事を本人や家族様から聞き取り、不安なく安心して生活が出来るように信頼関係を築く努力をしている	
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の問い合わせ時や見学時や面談時に家族様が困っている事や不安に思っている事を詳しく聞いて、不安なく生活が出来るように話あっている。	
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族様との会話の中から必要としている事を見極め、検討し対応出来るように努めている	
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様同士が協力して共同生活が出来るように職員が間に入り、一緒に暮らしているように関係を築けるように支援している	
19	○本人を支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の面会時や連絡時に本人の状況や日々の様子を詳細に伝えて、協力もお願いし本人を支える関係を築いている	
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や馴染の人からは、手紙などが届いている。電話連絡もある。	これまでの地域社会との関わりを継続していくために取り組んでいる。家族や友人の訪問であったり、電話や年賀状での連絡を取り持つ支援などとても大事にしている。また、1階フロアで面会ができます。お正月は家族と一緒に時間を持つため外出される方もいます。
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で利用者同士の関係を把握し、利用者同士が支え合い、仲良く生活出来るように支援している。	

自己 第3	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても関係性を大切にしている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや希望を聞き、希望に沿えるように支援している。本人から聞き取りが困難な時も家族様に聞いたり、本人の思いを検討している	入所時からできるだけ個別性を捉えた対応を心がけておられる。運営規定にも上げられている。担当職員が決まり状況の身体上の変化や状況について介護にも反映されるようになっていく。聞き取りをされたこれまでの生活史を大切にされている。		
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に今までの生活歴や生活環境、趣味などを聞いていて、把握している			
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方や日々の心身状態、健康状態などは記録に残し、申し送りノートや申し送り時に職員間で共有している			
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が中心になって、本人や家族と話し合い、フロア一会議棟でも意見を話し合い、本人に応じた介護計画を作成している	各フロアで入居者の情報を担当職員が収集しその課題をフロア一会議等で検討している。これまでに夜間排泄介助について、会議を行い、本人様の尊厳を護り、より危険の回避がなされ支援が継続されているケースなどがある。	担当職員が選任されて、入居者の状態確認を行い課題に対し、情報を他のスタッフと検討・実施を行っています。それらをケアプラン第2表に記載しより具体的に評価を行うことで、更に自立支援に繋がると考えます	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践や気づきなどは個人の記録に記入し、職員間は連絡ノートにて情報を共有して、必要時はカンファレンスを行い、介護計画の見直しに活かしている			
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況やその都度に生まれるニーズに対して素早く柔軟な支援を行えるように取り組んでいる			

自己 第三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	受診時に送迎の為に介護タクシーを手配した		
30	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人や家族の希望をお聞きし、主治医と連携し、受診や紹介等により専門医への受診にも対応している。家族様にて受診が難しい時は施設にて同行受診している	かかりつけ医及び診療科の違う受診希望時など、本人・家族の意向を反映し受診をすることが可能である。24時間オンコール体制で、緊急時にも備えている。医療連携体制もあり、状態確認を希望される方は可能である。介護保険制度利用によるものは重要事項等に記載されている	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等々に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人の体調不良や体調変化時には看護師に報告し適切な処置や受診に対応できるように連携している		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には地域連携室にササリーを提供し随時連携し、その都度、情報交換を行い、早期の退院に向けての退院カンファレンスにも参加している	医療連携に関する同意書をもって個人情報保護を心がけている。医療との速やかな情報共有を心がけている。そのため、入院時情報提供もできるだけ早急に行い、退院時には連絡をもらい、必要に応じて退院時カンファレンスに参加、受け入れができる体制をとっている。	
33	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化した場合や施設での看取りについて説明し、文書での同意も得ている。看取りの時期になった場合は主治医より家族様に説明があり、主治医・NS・職員とチームで関わっている	終末期・看取り期に関する説明・ターミナルケア同意書・医療連携体制に関する説明と同意が入所時及びそのような状態になられた際にも行われる。医師・看護師・介護支援専門員・介護士等の施設内連携及び地域での関係機関との連携も取れている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えて、職員全員に研修を行って常に意識づけしている。AED使用の研修も随時に行っていて、職員がすばやく使用出来るようにしている		
35	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震や火災を想定した避難訓練を年2回実施している。地域との協力体制は築いていない	重要事項説明書13.非常災害時対策が記載され、事業継続計画(自然災害・感染症)を確認した。確りと計画作成に取り組まれている。また研修体制及びその結果よりそれらの実施訓練等も行われていることを確認した	事業継続計画(BCP)今後もうラツシュアアップが必要になります。また職員全体への周知が必要なので様式の変更なる記載の追加と同時に行って頂くことを願っています。

自己 自己	第三者	項 目	自己評価	実践状況	外部評価
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重してその方々に合った声掛けを行い寄り添う事の出来るケアを行っている	その方の持つ個性を大切にし、個々に会った声掛けを実践されている。特に排泄等に関することは丁寧に対応するようにしている。そのためには、人としての情報を確りと各職員が読み取り対応するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が意見や希望を気兼ねなく言えるように側に寄り添い信頼関係を築く努力をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の個人の生活のペースを把握し、希望に沿えるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれできるように支援している	2ヶ月に1回、訪問理美容で本人希望の髪型にカットしている、季節に合った洋服を選んで頂き、清潔に過ごして頂けるように支援している。行事等に参加時は、本人の氣に依っている洋服を着て頂いている		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備中から今日のメニューの話をしたり、匂い等によって食事を楽しみにして頂けている。コロナの為に食事の準備は行っていないが、食事前後のテーブル拭きや下膳を手伝ってもらっている	行事報告書より、毎月1回はその月のイベントを企画している。例えば「母の日」お好み焼きを囲み、ペンダでの食事会など楽しみながら美味しく食すことができるような取り組みをしている。イベント食の聞き取りも行い次の行事に活かせるようにしている。	食事をするデイルームではメニューの張り出し等はされていません。以前は献立表を貼っていたようです。食事はとても楽しみなので、再度貼りだし、あるいは書くことが好きな方に献立を書いてもらっても良いかと思います。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に応じた食事量を把握して支援している。毎日の食事量や水分量を記録し観察を行っている。食事量や水分量の低下が見られた時は職員間で情報共有をして、その都度工夫を行い必要があれば主治医・NSに報告相談している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に自分で出来る方は声掛けにて自分で口腔ケアを行い確認を行っている。出来ない方は職員で介助している。週1回、訪問歯科の往診を受けている		

自己 第3者	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(20) 〇排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで排泄が出来るように排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている	個々の排泄パターンを把握し、できるだけご自身がお手洗いにに行けるような誘導を行っている。現在、ご自身で排泄のことが概ねできている方が多くおられた。尊厳が守られ、疾患への罹患を防ぎ自立の支援をしていることが見て取れた。		
44	〇便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、個々での排便状況の確認を行っている。便秘時には腹部マッサージや飲み物の工夫をしている			
45	(21) 〇入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべく本人の希望時間に合わせて入浴を行っている。入浴を拒否された時は、無理強いをせず納得して頂く様に声掛けや誘導の工夫を行った	基本的な入浴の回数は週2回である。排泄等による汚染などがあつた場合等必要に応じて回数が増える。拒否等があつた場合は。時間及び曜日の変更などで対応し、できるだけタイミング良く入浴をして頂いている。		
46	〇安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況に応じて本人から希望があれば休んで頂くなどの支援を行っている。安眠の為に室内の温度や環境にも注意している			
47	〇服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は個別ファイルに保管しており、すぐに確認できるようにしている。錠剤が飲み込めない方は散剤を服用出来るように支援している、状態に変化時は主治医・NSIに報告相談をしている			
48	〇役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話の中での楽しみを見つけ、役割などに活かせるように支援している。嗜好品などは家族の了解の元で購入していたり、家族様に差し入れをお願いしている			
49	(22) 〇日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日には、出来るだけ近隣を散歩に出かけている。職員だけでなく外出が不可能な所には家族様に協力して頂き外出が出来るように支援している	施設の周囲に5カ所の公園があり、天気の良い日は散歩にでかける。現在、2月の時期は寒さもあり外出を控えている所もある。各階にある広いベランダや施設前の広場を使い日向ぼっこや外でのイベントも行っている。買い物は希望があつた時にその入居者と行かれるという状況である。		

自己 第三	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布を持っておられる方もいるが、買い物 の為の外出が出来ていない			
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている	本人から要望があれば家族様に電話連絡 や携帯電話のLINEでテレビ電話を行ってい る、携帯電話を持っていて自分で連絡を 取っている 本人から希望があれば手紙を 書いて頂いている			
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴 室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をま ねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がな いように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、 居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の動線を考慮し、混乱をまねかな いようにトイレには表示し、季節の飾りを飾 り工夫している、行事時には、手作りポス ターを掲示している	入居者の方々がおられるスペースはきれいに掃除 がされて、換気も行き届いている。なにより広々と ゆったりした環境で皆様がくつろいでおられる様子 でした。壁にはひな人形が折り紙等で彩りよく飾ら れていました。食卓スペースも広く、風通し良い大き な窓・日の光が確りと入る状態であった。		
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになったり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の 工夫をしている	その日の気分に合わせて一人で過ごした り、皆で楽しく過ごせる事が出来るように工 夫している			
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活か して、本人が居心地よく過ごせるような工夫をして いる	自分の家と思って頂けるように本人の好み の物や使い慣れた物を使用して頂き、心地 よく過ごして頂けるように工夫している。衣 類などは本人の好きな洋服や以前から着て いた洋服を家族に持ってきてもらっている	ある程度自由に、ご自身のお好きなものを居 室に入れることができる状態であり、憩いの場 であるような雰囲気であった。各居室もデ イルーム等と同じく明るく光が入り、臭気等も全 く気にならない状況であった。		
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかるこ と」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	トイレや浴室はわかりやすく表示している 各居室には名札を掲げていて、自由に居室 やフロアーを行き来出来るようにしている			